試合番号

## 戦 評 用 紙

ン

男子 女子

3回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸

Aコート

チーム名	総得点	8 - 11	総得点	チーム名
浦添商業高等学校	20	12 — 13 — — —	24	県立旭丘高等学校
	L	7mTC	J	

3回戦第2試合、1回戦から連勝で波に乗る九州ブロック浦添商業と2回戦の接戦を制した東海ブロック旭丘の対戦。前半、浦添からのスローオフ。旭丘③番サイドシュートで先制点をあげる。その後浦添も③番が得点を入れる。序盤は両チーム均等に加点を続け、攻守のリズムを保ち同点で進行する。中盤は両者一進一退の攻防を展開し逆転のチャンスを狙う。均衡が崩れたのは開始17分、浦添の⑦番が速攻も交えた左からのサイドシュートなどでリードを3点にし、終盤優勢に試合を進める。また、GKの好セーブや堅いディフェンスカに、終盤になり浦添の追加点が見られず、残り2分で浦添がTOを取る。その後、両者各々1点ずつ取り、8対11で旭丘リードで前半を折り返した。後半も旭丘は開始早々⑤番が得点を先取。④番もそれに続き3点連取した。中盤に差しかかり、浦添の攻守に機敏さが増し、差を縮めようとするが、対する旭丘は8番の3点連取、3番のサイドシュートも鮮やかに決まりリードをさらに広げていく。終盤、両者白熱した試合運びを展開し、旭丘が2人の退場者を出すも、旭丘GK12番の好セーブもあり、20対24で試合終了。旭丘が逃げ切って3回戦に進出する。

2018年 3月 26日 記載者氏名 沖谷 晃一郎

試合番号

戦 評 用 紙

男子 女子

3回戦・準々決勝・準決勝・決勝

会場	グリーンアリーナ神戸			Bコート
<u> </u>	サーム名 ・	総得点 11 8	総得点 - 27 - 17 - 144	チーム名 大分高等学校
			7mTC	

明朗快活がモットーの立命館守山と堅守速攻がモットーの大分の対戦。

スローオフは立命館守山。先制点は大分⑨のミドルシュート。大分は試合開始から勢いに乗り4連続得点。3分に立命館守山 T.O。流れは変わらず前半7分で8対O。その後も立命館守山は懸命に攻めるも大分のDFに阻まれ、逆速攻で得点を許す。自分たちのペースを掴みきれずに無得点のまま前半15分立命館守山⑦のミドルで待望の得点。しかし、流れは変わらず前半を終了しスコアは27対3で大分が立命館守山を24点リード。後半先制点は大分®が逆速攻から得点。その後、立命館守山は何とか大分のDFを崩そうと懸命に足を動かし攻撃を仕掛けるが大分DFとキーパーの連携のとれた堅守に阻まれ決定的なチャンスを作ることができないまま時間が過ぎていく。後半16分36対6。一方の大分は速く確実な攻めで攻撃の手を緩めず得点チャンスを着実に決め試合を完全にコントロール。ルーズボールも執念で掴み、大分のDFから放たれるプレッシャーにより、立命館守山にミスが続き40対11で大分が立命館守山を下し、次に駒を進めた。

2018年 3月 26日

記載者氏名 宮﨑 慶仁

試合番号

男ロ

#### 戦 評 用 紙

女子

3回戦)・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

神戸国際大学附属高等学校

チーム名 チーム名 総得点 桃山学院高校

大会3日目3回戦第2試合の対戦カードは今大会18回目の桃山学院と24回目の不来方。ともに 出場常連校である。不来方のスローオフで試合は始まる。不来方は速いパス回しからの14番藤原が サイドシュートで先取し、その後も11番釜石がシュート決め、4得点をあげる。対する桃山学院も 4番鍋谷がポストシュートを決めると、相手のミスからの速攻で同点に追いつく。立ち上がりは 互いに一歩も譲らぬ白熱した展開になる。しかし、試合の流れが変わったのは17分過ぎ、不来方 が相手のDFファールを誘い、7mTで得点。続けて14番藤原が速攻で2連取し、13対8と 5点リード。たまらず桃山が T. Oを取る。その後桃山が 3番占部のサイドシュート、速攻からの得 点で点差を縮めるも、14対12で不来方が2点リードで前半を折り返す。後半、桃山が11番 池原の豪快なロングで加点するも、不来方5番新里のシュートで差を縮めることを許さない。点の 取り合いで息をつく暇のない攻防が続く。しかし終盤は、桃山が不来方のGK小山田の好セーブに 得点を阻まれ、27対26で不来方が準々決勝へ駒を進めた。

30年 3月 26日

記載者氏名 杉山 博章

試合番号

## 戦 評 用 紙

<b>(</b> 男子 <b>)</b>	・女子	3	回戦	•

・女子 3 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場	神戸市立中央体育館			コ	<b>- ├</b>
	チーム名				チーム名
		総得点		総得点	
		r <u>1</u> 1	1 - 14		
		22	1 - 12	26	
	浦和学院	22		20	中部大学春日丘
		L	-     _	]	
			7mTC		

小松工業との接戦を征した浦和学院と、東海ブロックを征した春日丘との対戦。春日丘のスローオフで試合開始。先制したのは浦和学院。1分2〇秒に④山本のカットインからのシュートで先制。対する春日丘も1分49秒にすかさず②可児のシュートで得点。その後は一進一退の攻防で、互いに譲らぬ展開に。18分12秒に浦和学院が3連続得点を決めると、ここで春日丘はTO。落ち着きを取り戻した春日丘は、ブロックカットからの②可児の速攻などで4連続得点。ここで、浦和学院は26分〇4秒にTO。しかし、その後も春日丘の④長坂、②可児が連続得点を挙げ、浦和学院を4点差に突き放す。その後も攻防は続き、春日丘の3点リードで前半を終える。後半は、浦和学院が波多野のシュートを皮切りに3連続得点を挙げ、一気に同点に追いつく。しかし春日丘もすぐに得点を挙げ、逆転は許さない。ここからは再び、点を取られては取り返すシーソーゲームの展開となり、春日丘が僅かなリードを保ったまま試合が進行する。終盤、浦和学院は7人攻撃を仕掛けたり、オールマンツーでパスカットからの速攻を狙うが、春日丘の堅いDFに拒まれる。対する春日丘は④長坂のパスカットが冴え、得点を重ねる。②可児の15得点が光った春日丘が、必死に食らいつく浦和学院を振り切り、準々決勝に駒を進めた。

30年 3月 26日

記載者氏名 石田 聡